

授業科目名・形態	地域福祉論Ⅱ 講義		必修・選択の別	選択
担当者氏名	石岡 和志・脇山 園恵・山田 克宏	開講期	3年 前期	単位数 2

### 【授業の主題】

2000年の社会福祉法改正から地域福祉のメインストリーム化が進んでいる。本講は、地域住民の抱える生活問題の解決に必要な不可欠となる地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に習得することを目的とする。これらを体系的に学ぶことにより、制度横断的な支援方法を身につけることができる。具体的には、地域福祉におけるネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域包括ケアシステム、サービスの評価方法等について、各地の地域福祉計画の推進方法や各地のコミュニティ資源を生かした福祉実践事例を取り入れながら学習する。

### 【到達目標】

- 1) 地域福祉の推進について、社会福祉法と関連づけて記述できる。
- 2) コミュニティソーシャルワーカーの役割について、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係から説明できる。
- 3) 地域における社会資源の活用と開発の技術について、状況設定場面から適用できる。
- 4) 地域における福祉ニーズの把握方法について、質的・量的な観点から記述できる。
- 5) 地域トータルケアシステムについて、社会的背景・理論的背景から確認できる。

### 【授業計画・内容】

- 第 1回 社会福祉法の改正と地域福祉
- 第 2回 コミュニティソーシャルワークの考え方と展開
- 第 3回 多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク
- 第 4回 専門職（コミュニティソーシャルワーカー）と地域住民の関係
- 第 5回 ソーシャルサポートネットワークの考え方
- 第 6回 地域における社会資源の活用と開発
- 第 7回 地域における社会資源の活用（税制優遇と助成金）
- 第 8回 地域におけるアウトリーチの意義
- 第 9回 地域における福祉ニーズの把握方法（質的、量的な福祉ニーズ）
- 第 10回 地域トータルケアシステムの必要性和考え方
- 第 11回 地域トータルケアシステムの展開方法
- 第 12回 福祉サービスの評価の背景と評価の考え方
- 第 13回 福祉サービスの評価方法と実際
- 第 14回 災害支援と地域福祉
- 第 15回 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（イギリスとアメリカ）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

### 【授業準備】

2年次において学んだ地域福祉論Ⅰを復習するとともに、講義中に指摘する問題について新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 公的扶助論、権利擁護と成年後見、社会福祉概論Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ

### 【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編：地域福祉の理論と方法（第3版）、中央法規出版、2015。

### 【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

### 【成績評価方法】

平常点10%、レポート40%、期末試験（筆記）50%により評価する。60%以上の得点を合格とする。

### 【学生へのメッセージ】

地域福祉活動は生活の場での実践です。そのため各科目に共通した部分が多くあります。自分にとっての身近な地域における生活問題を意識しながら授業に臨んでください。